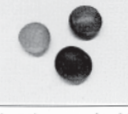
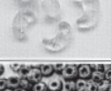


①古墳時代の玉類のかたち

勾玉	管玉	丸玉・小玉	算盤玉	切子玉
				
古墳時代の玉類としては、最も有名な形。縄文時代の牙製勾玉以来の歴史を持つ。	勾玉について、古墳時代に特徴的な玉である。碧玉、緑色凝灰岩で作られることが多い。	数量的には古墳時代の玉類としては最多。ガラス製が多いが、メノウ製などもある。	ソロバンの玉のような形。碧玉、メノウ、水晶、埋もれ木などで作られる。	算盤玉が多角形状に面をもったもの。古墳時代後期に水晶製のものが盛行する。
棗玉	白玉	垂玉	平玉	三輪玉
				
棗の実のように、中央が膨らんだもの。埋もれ木製のものが多い。	主に滑石製で、扁平な円柱状やソロバン玉状になる。祭祀などの用途で使われることが多い。中期を中心に大量に製作される。	不定形な形をしており、上端に孔がある。古墳時代では水晶製が多い。	平らな玉で、表裏面と側面は面取りされている。孔が開けられる場合は側面に施されているのが特徴で碧玉・メノウで作られる。	刀剣の柄部に取り付けの護拳帯飾りに用いられ、穿孔されない。碧玉や水晶で製作されることが多い。

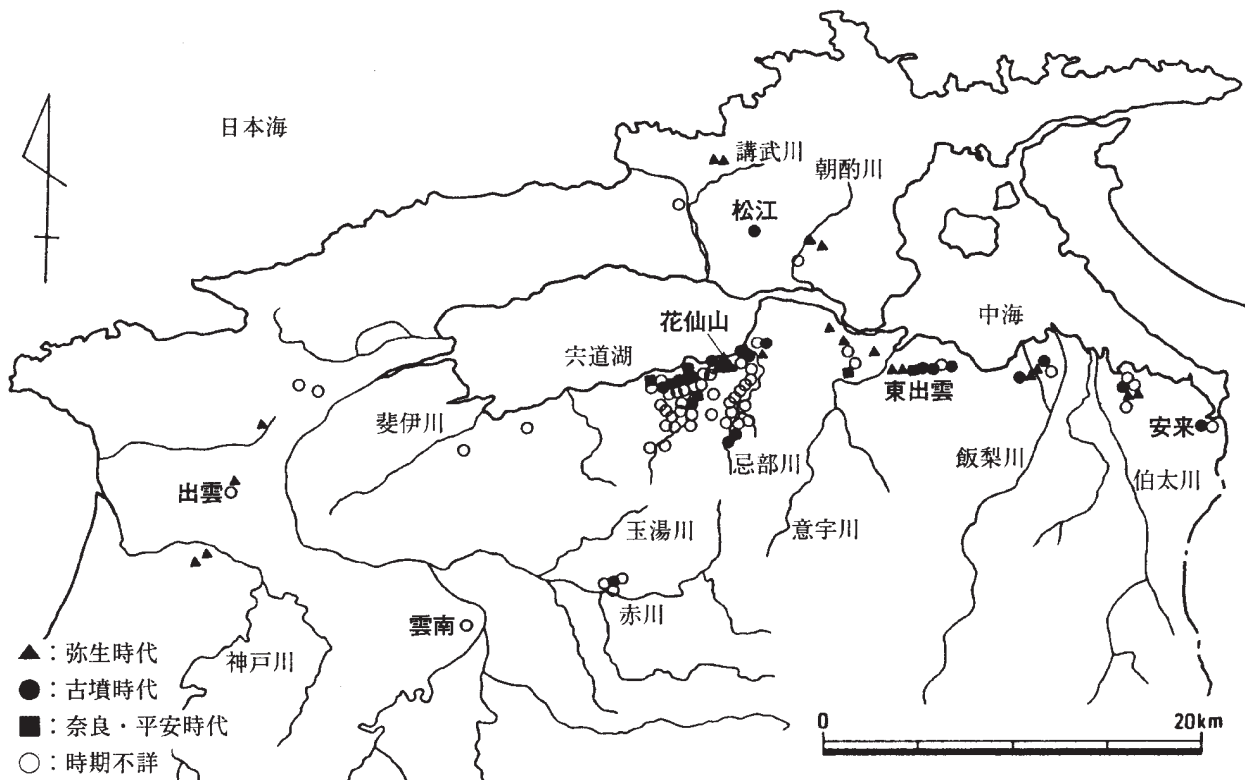
勾玉：平ノ前遺跡（島根県埋蔵文化財調査センター蔵）、管玉：將軍山4号墳（茨木市教育委員会蔵）、丸玉・小玉：高津久2号横穴墓（知夫村教育委員会蔵）、算盤玉：丸子山1号墳（奥出雲町教育委員会蔵）、切子玉：高津久2号横穴墓（知夫村教育委員会蔵）、棗玉：青塚古墳（京都府立山城郷土資料館蔵）、白玉：石田古墳（松江市蔵）、垂玉：丸子山1号墳（奥出雲町教育委員会蔵）、平玉：洪山池遺跡（島根県埋蔵文化財調査センター蔵）、三輪玉：島田池遺跡（島根県埋蔵文化財調査センター蔵）

②玉類に使用される主な素材

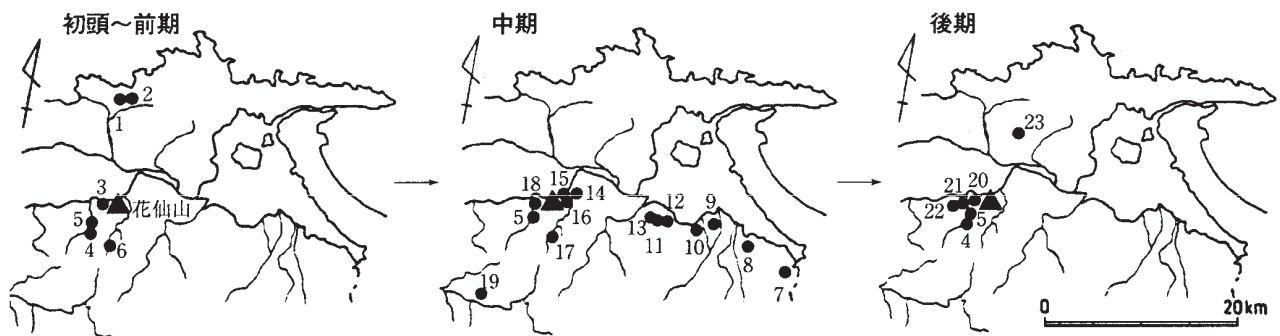
名称	外観	色	硬度	比重	主な産地	古墳時代の主な玉用途	特徴
ヒスイ(翡翠) Jadeite		緑色～緑白色	6.5～7	3.3～3.5	新潟県、岡山県、兵庫県、鳥取県など	勾玉、棗玉	ヒスイ輝石を主成分とする岩石で、蛇紋岩中に塊状に産出する。新潟県青海川・姫川の産地が有名。
緑色凝灰岩 Tuff		淡緑色	—	—	石川県、福井県、兵庫県、鳥取県、島根県など	管玉、腕輪形石製品	緑色の火山灰が海底で堆積したもので、日本海沿岸に帯状に分布する。弥生～古墳時代の玉素材として多用される。
碧玉 Jasper		濃緑色ほか	7	2.7	島根県、石川県、兵庫県	勾玉、管玉、平玉、算盤玉、棗玉	細結晶性の石英の一種で多量の酸化鉄で着色される。弥生～古代の玉素材として多用される。
メノウ(瑪瑙) Agate		赤橙色～白色	7	2.7	島根県、石川県	勾玉、管玉、丸玉	細結晶性の石英の一種で白色～赤色の縞模様が特徴。弥生～古代の玉素材として多用される。
水晶 Rock crystal		透明～白色	7	2.7	日本各地	勾玉、切子玉、算盤玉、垂玉、三輪玉	石英のうち、六角錐状・双葉状などの結晶形で透明なもの。弥生～古代に玉素材として多用される。
滑石 Talc		灰色～白色	1	2.8	日本各地	白玉、勾玉、管玉、模造品	考古学で使用する「滑石」は、鉱物学上の滑石、蛇紋岩、蛭石、泥岩、頁岩、緑泥片岩の総称である。
コハク(琥珀) Amber		黄色～赤褐色	—	1.1	千葉県、岩手県、岐阜県	勾玉、棗玉	松脂などの樹脂が化石化したもの。埋もれ木などの重炭に伴って産出する。縄文～古代の玉に使用される。
ガラス(玻璃) Glass		青色、緑色、赤色、黄色など	(5)	2.5	—	勾玉、管玉、丸玉、小玉	珪砂(SiO ₂)に融点を下げるためにソーダ灰、鉛丹、木炭などを調合して製作する。生産地や時代によって融剤による微量成分がことなる。

ヒスイ：近長丸山1号墳（津山市教育委員会蔵）、緑色凝灰岩：布田遺跡（島根県埋蔵文化財調査センター蔵）、碧玉：大寺古墳（島根県埋蔵文化財調査センター蔵）、メノウ：神領2号墳（宇美町教育委員会蔵）、水晶：洪山池古墳群・白コクリ遺跡（島根県埋蔵文化財調査センター蔵）、滑石：石田古墳（松江市蔵）、コハク：奥才34号墳（松江市蔵）、ガラス：山持遺跡（島根県埋蔵文化財調査センター蔵）

〔島根県立古代出雲歴史博物館 2019『古墳文化の珠玉』より転載〕



③出雲における玉作り遺跡の分布



- 1 堀部第2遺跡
- 2 堀部第3遺跡
- 3 樅の木古墳群
- 4 史跡出雲玉作跡宮ノ上地区
- 5 史跡出雲玉作跡宮垣地区
- 6 後原遺跡
- 7 平ラⅡ遺跡

- 8 大原遺跡
- 9 塩津山遺跡
- 10 柳Ⅱ遺跡
- 11 勝負遺跡
- 12 四ツ廻Ⅱ遺跡
- 13 原ノ前遺跡
- 14 田和山遺跡群 (A遺跡)
- 15 大角山遺跡

- 16 福富Ⅰ遺跡
- 17 忌部中島遺跡
- 18 杉谷遺跡
- 19 大東高校校庭遺跡
- 20 布志名狐廻遺跡
- 21 平床Ⅱ遺跡
- 22 堂床遺跡
- 23 田中谷遺跡

④出雲における古墳時代の玉作り遺跡の変遷

弥生時代

【前期～中期前葉】



【中期中葉～後葉】



【後期】

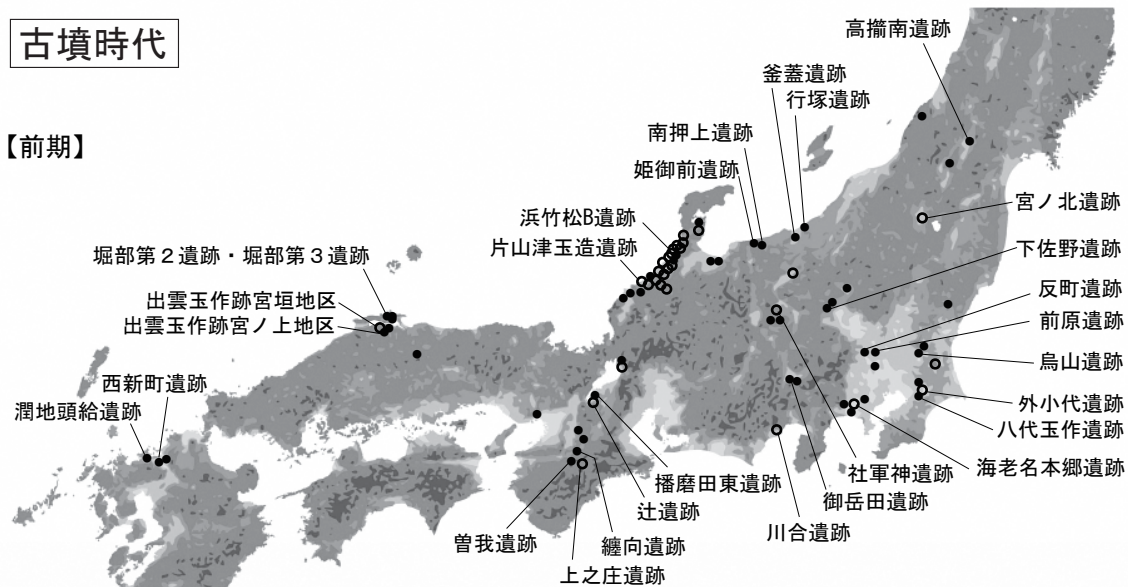


- : 管玉
- : 管玉 + ヒスイ製勾玉
- △ : 管玉 + 水晶製玉類
- : 管玉 + ヒスイ製勾玉 + 水晶製玉類
- × : 蛇紋岩製玉類

⑤ 弥生時代における主な玉作遺跡の分布

古墳時代

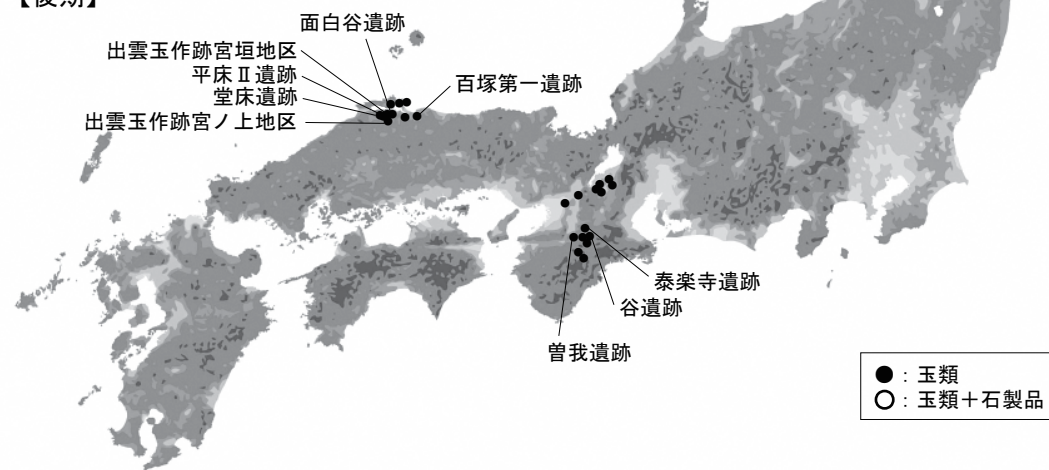
【前期】



【中期】

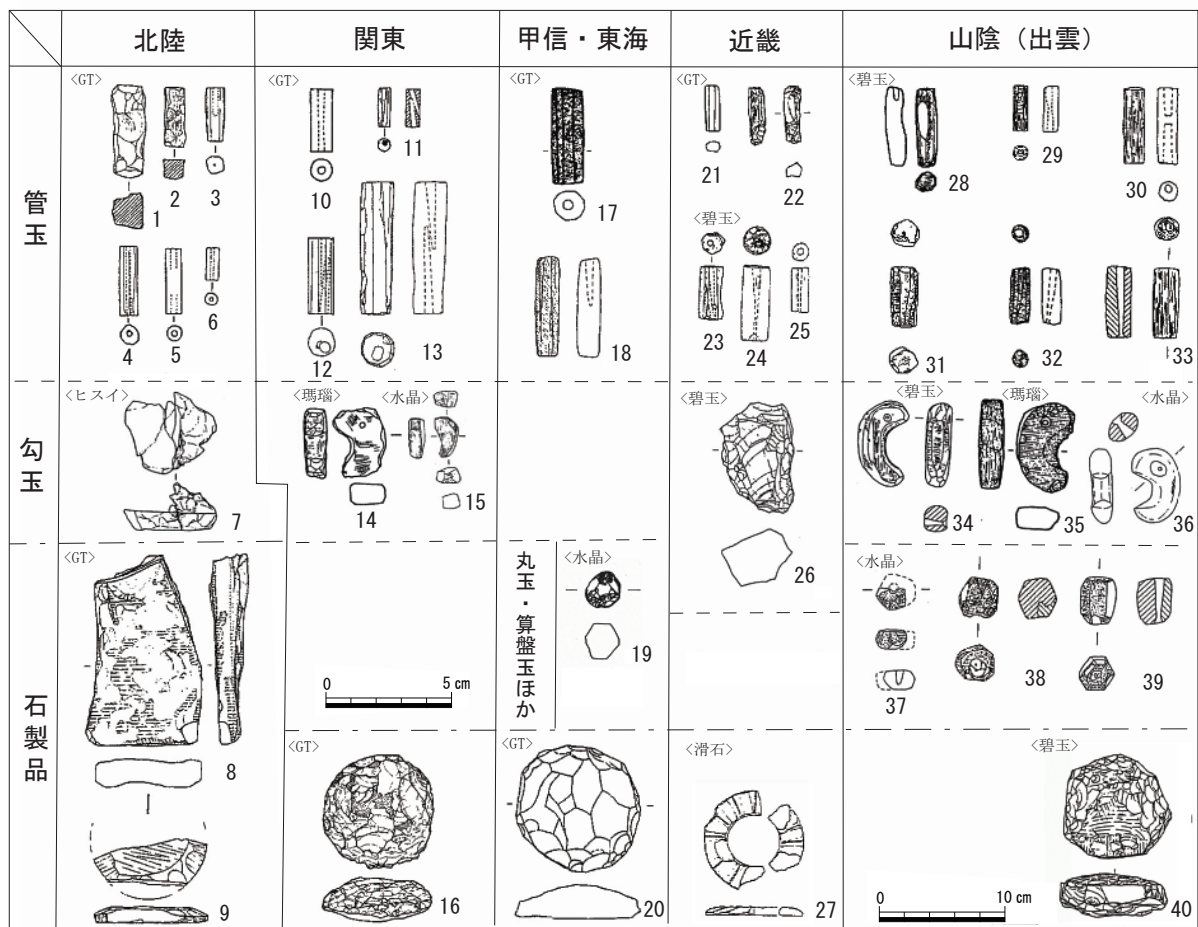


【後期】



● : 玉類
○ : 玉類+石製品

⑥古墳時代における主な玉作遺跡の分布

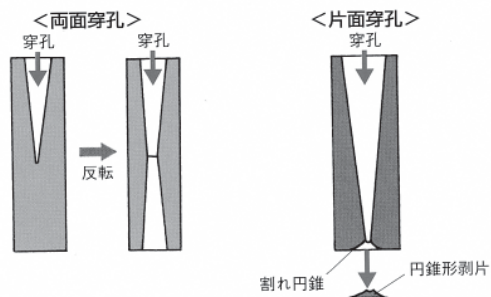


【遺跡】1～6・8・9石川県片山津玉造、7富山県浜山、10・14茨城県烏山、11千葉県稲荷峰、12千葉県八代、13・16神奈川県本郷、15埼玉県反町、17・20長野県社軍神、18静岡県川合、19山梨県御岳田、21滋賀県辻、22・26大阪府長原、23奈良県布留、24・25奈良県曾我、17奈良県上之庄、28・35島根県大角山、29島根県勝負、30島根県大原、31・32島根県福富Ⅰ、33・34・37～39島根県堂床、36島根県平床Ⅱ、40島根県後原

【時期】1～6・8・9・10～20・27は前期、40は前期？、21は前～中期、7・26・28～32・35は中期、23～25は中～後期、33・34・36～39は後期

【材質】< >は材質となる石材を示す。GTは緑色凝灰岩の略。

⑦古墳時代における玉類・石製品の未成品（玉類はS=1/3・石製品はS=1/6）



⑧玉の穿孔技術模式図

⑨出雲における古墳時代の玉作りの特徴

1. 長期間期間にわたる玉作りの実施
(弥生時代前期～古墳時代～奈良・平安時代)
2. 花仙山産碧玉・瑪瑙・水晶製の玉類
(勾玉、管玉、算盤玉、丸玉、切子玉、平玉など)
3. 鉄針で片面から孔をあける（片面穿孔）
※古墳時代中期後葉から管玉にも片面穿孔を採用

<主な参考文献>

- 大賀克彦 2008「古墳時代後期における玉作の拡散」『古代文化研究』第16号 島根県古代文化センター
- 河村好光 2010『倭の玉器 玉つくりと倭国の時代』青木書店
- 古代歴史文化協議会 2018『玉ー古代を彩る至宝ー』ハーベスト出版
- 島根県教育委員会 1987「玉作関係遺跡」『島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅳ』
- 島根県教育委員会 1997『古代出雲文化展 神々の国ー悠久の遺産ー』
- 島根県立古代出雲歴史博物館 2009『輝く出雲ブランド 古代出雲の玉作り』
- 島根県立古代出雲歴史博物館 2019『古墳文化の珠玉』
- 島根県古代文化センター 2004『古代出雲における玉作の研究Ⅰ』
- 島根県古代文化センター 2005『古代出雲における玉作の研究Ⅱ』
- 島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター 2009『出雲玉作の特質に関する研究』
- 島根県古代文化センター 2019『古墳時代の玉類の研究』
- 島根県古代文化センター編 2020『古代出雲ゼミナールⅥ』島根県・島根県教育委員会
- 関川尚功 1985「古墳時代における畿内の玉生産」『末永先生米寿記念献呈論文集』同記念会
- 寺村光晴 1966『古代玉作の研究』吉川弘文館
- 寺村光晴 1980『古代玉作形成史の研究』吉川弘文館
- 寺村光晴（編） 2004『日本玉作大観』吉川弘文館
- 奈良県立橿原考古学研究所 1983「曾我遺跡発掘調査概報Ⅰ」『奈良県遺跡調査概報（1982年度）』
- 奈良県立橿原考古学研究所 1984「曾我遺跡発掘調査概報Ⅱ」『奈良県遺跡調査概報（1983年度）』
- 奈良県立橿原考古学研究所 1989「曾我遺跡（遺構・土器篇）（玉類集計篇）」奈良県史跡名勝天然記念物調査 報告第55冊
- 濱田耕作・島田貞彦・梅原末治 1927『出雲上代玉作遺物の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第10冊
- 菱田哲郎 2007『古代日本 国家形成の考古学』京都大学学術出版会
- 北條芳隆・禰宜田佳男（編） 2002『考古資料大観』第9巻（弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器）小学館
- 玉湯町教育委員会 1972『史跡出雲玉作跡ー発掘調査概報ー』
- 玉湯町教育委員会 1984『史跡出雲玉作跡ー宮ノ上地区ー第1次発掘調査概報ー』
- 玉湯町教育委員会 1985『史跡出雲玉作跡ー宮ノ上地区ー第2次発掘調査概報ー』
- 玉湯町教育委員会 1986『出雲玉作跡保存管理計画策定報告書Ⅰー宮垣地区・宮ノ上地区ー』
- 玉湯町教育委員会 1988『史跡出雲玉作跡ー玉ノ宮地区ー第1・2次発掘調査概報ー』
- 玉湯町教育委員会 1990『出雲玉作跡保存管理計画策定報告書Ⅱー玉ノ宮地区ー』
- 玉湯町教育委員会 1999『蛇喰遺跡』
- 玉湯町教育委員会 2000『玉湯なんでも大事典』
- 玉湯町立出雲玉作資料館 1980『玉湯町立出雲玉作資料館年報Ⅰ 昭和52・53年度』
- 玉湯町立出雲玉作資料館 1981『玉湯町立出雲玉作資料館年報Ⅱ 昭和54・55年度』
- 松江市 2012『松江市史』史料編2
- 松江市 2015『松江市史』通史編1 自然環境・原始・古代
- 松江市教育委員会 2009『史跡出雲玉作跡宮ノ上地区発掘調査報告書』
- 米田克彦 2005「出雲における古墳時代玉生産の展開と独自性」『玉文化』第2号 日本玉文化研究会
- 米田克彦 2009「考古学から見た出雲玉作の系譜」『出雲古代史研究』第19号 出雲古代史研究会
- 米田克彦 2013「弥生時代における玉生産の展開」『日本海を行き交う弥生の宝石』鳥取県埋蔵文化財センター
- 米田克彦 2019「古墳時代玉作遺跡の分布と変遷」『古墳時代の玉類の研究』島根県古代文化センター

<図表出典>

- ①②島根県立古代出雲歴史博物館 2019、③米田 2005 を改変、④米田 2009 を改変、⑤米田 2013 を改変、⑥米田 2019、⑦島根県古代文化センター編 2020、⑧島根県立古代出雲歴史博物館 2009